

「九州水とみどりの美の里づくり懇談会（第5回）」の概要について

九州農政局では、美しい農山漁村づくりを進めるため、3月4日（火）に福岡県うきは市内において、「九州水とみどりの美の里づくり懇談会（第5回）」を開催しました。本懇談会は、平成15年9月に策定された「水とみどりの『美の里』プラン21」に基づいて、実効性の高い施策を展開するために、学識者の方々から専門的見地からご意見をいただくとともに、地域での取り組みについて意見交換を行うものです。

学識経験者として九州大学大学院農学研究院：横川 洋教授（農業資源経済学）、同：佐藤 剛史助教（農業経済学）、同：弓削 こずえ助教（灌漑工学）及びU PLANNING & DESIGN：高山 美佳代表を、地元からはつづら棚田を守る会の堤 寿夫代表、吉井町町並をよくする会の行徳 寛会長を始め多くの地元の方々を迎え、福岡県、うきは市の出席をいただいて開催しました。

今回の懇談会は、中山間地域にある「棚田地域の農村景観」と平地地域にある「清流が流れる白壁の町並みの景観」を取り上げ、『美しい農村景観と伝統文化的景観の保全について』をテーマにこれらの景観をどう維持、保全し、次世代に繋げていくのか等について実施しました。

まず、旧吉井町で重要伝統的建造物群保存地区として指定された白壁の町並みの現地調査を行い、町並み保全の現状等について説明を受けました。

現地調査の後、場所を「町並み交流館 商家」に移して、九州農政局河津農村計画部長の挨拶の後、「農山漁村活性化の取り組み」、「景観農業振興地域整備計画」、「美の田園復興事業」等について九州農政局から説明を行いました。

つづら棚田を守る会の堤代表からつづら棚田における景観保全の取り組みを、又、うきは市小河係長から白壁の町並みにおける景観保全の取り組みを発表していただき、その後、学識者の方々から専門的分野から景観等の研究や実践されている地域活動を通じた景観保全の必要性や課題についてお話しいただき、意見交換を行いました。

意見交換会の中では、景観を魅力あるものとして維持保全していくためには、

棚田や町並みの景観を守っていくには、いろいろな形で地域住民を巻き込み、連携していくことが必要である。

今の棚田オーナー制度だけでは景観は守れない。本気でやりたいという都市住民に対して日本初の超本格的オーナー制度（田植え後の管理作業、草刈り等）を打ち出す。

多くの地元の方は地元の景観の良さに気づいていない。外から来た人を受け入れることで地元の良さに気づく。

営農の状態や維持管理活動によって農村の景観は変化して、景観を見た人が受ける印象が異なってくる。農村の景観を保全するには農業を行い、農作物を生産することとか、地域の集落活動、維持管理活動というものが非常に大切になってくる。

ドイツでは無農薬、景観保全を積極的に行っている農園で生産されるリンゴからとれるリンゴジュース「白雪姫」ブランドが高値でも消費者に受け入れられており、例えば農村景観を守る農産物として環境ブランド化した棚田米を打ち出す。

担い手として農業に関心のある若者を1年間受け入れるために、研修生には小遣いを、また、受け入れる農家に研修生の食費や寝泊まりの補助を、例えば直売所の余剰金からあてがう。結果として、若い労働力や若いセンスが手に入り、1年後農業をやり出ても第2の故郷としてPRしてくれるし、いつか帰ってくるかもしれない。

インターネットに田主丸ぶどう狩りナビを立ち上げたところすさまじい反響があった。今後うきはの風景を含めて定住あるいは移住してほしいという情報を発信していくと新たな展

開が生まれていくのではないか。
等の意見が出されました。

今回の懇談会を開催したうきは市は、白壁土蔵の町並みを有する筑後吉井重要伝統的建造物群の保存地区においては電柱の埋設化も進んでおり、また、新川田籠地区の中山間地においては景観法に基づく景観農業振興整備計画の策定に向けた取り組みが始まったところです。



つづら棚田の風景



現地調査（白壁土蔵造りの町並み）



懇談会の状況

【問い合わせ先】九州農政局農村計画部農村振興課
課長補佐（農村計画推進）、農村整備計画係
TEL096 - 353 - 3561（内線 4322、4316）